

お彼岸とは・・・西方極楽浄土を想う。



現在彼岸といえば、春分や秋分を中心とした前後3日間を指し、一般的にはお墓参りや、お坊さんにお経をあげてもらって、先祖の霊を供養する時とされています。

彼岸とは文字通り「向こう岸」ということで、これに対して「こちら側」は此岸（しがん）といいます。向こう岸、それは阿弥陀仏が住む極楽浄土で、先祖の霊が安じているところであり、こちら岸は生老病死の四苦八苦（しくはっく）が在る娑婆世界、すなわち我々が生きている現世をいいます。人はみな極楽往生したいという願い～生死の此岸を離れて涅槃の彼岸に至る～という仏教の教えによって、彼岸という習俗を生むもととなったと考えられています。

さて、「彼岸の思想」は上記の通り仏教思想に由来するものではありませんが、行事としては日本固有のもので、インドや中国では行われておりません。日本史上では、平安時代の西暦806年に、桓武天皇によって怨霊を鎮めるべく執り行った「彼岸会」が、公の彼岸行事として日本で初めて行われたもので、当初は11日間の行事であったそうです。その後鎌倉時代になると、「滅罪生滅・後生菩提」を彼岸の際に祈る習慣が武士の社会に浸透し、さらに鎌倉後期に世間一般的な行事として、庶民の間に広がることとなりました。現在のように、春分秋分の前後7日間を彼岸とするようになったのは江戸時代になってからです。

また、春分秋分の日、太陽が真東から上がり、真西に沈む為、西方極楽浄土を思うには最も適しています。お釈迦様と阿弥陀如来の招きを信じてひたすら念仏をお唱えしながら、西方浄土に達したであろう先祖の霊を慰め、自分もまた彼岸に到ることを願って、「彼岸」という行事が仏教国・日本で完成されたのです。

どんなに科学が発展し進歩しても、人間が人間であることが変わる訳ではありません。今現在、自分自身がこの世に存在することを日々の生活ではなかなか実感できるものではありませんが、お彼岸を通じて、お墓や仏壇の前で祖先から受け継いだ遺産に感謝すると共に、自分自身を考える時間にしていただければと思います。

また、当寺院において春彼岸の結願日24日（彼岸最終日）に本堂にて春彼岸施餓鬼法要を執り行います。宗派等は問いませんので、どうぞご参詣下さいませ。

図書館の本、傷だらけ...「切り抜き」「線引き」横行

各地の公立図書館で、雑誌などから写真や記事を切り取ったり、専門書に蛍光ペンで線を引いたりするなど、図書を傷つける行為が増加している。中には、閲覧室で堂々と雑誌を切り取り、職員から注意されると「どうしていけないの」と反論する人もいる。

公共の財産を傷つけてはいけないという最低限のルールを破る行為の横行に、図書館側は「社会全体のモラル低下の表れでは」とため息をついている。

東京都世田谷区の区立図書館で被害が目立ち始めたのは5年ほど前から。徐々に悪化し、資料系の某係長は「最近では1日2、3件のペースで切り取りや書き込みが見つかる」と話す。

学校給食の問題を始め、昨今このようなモラルの低下を懸念する記事をよく見かけるようになってきました。私自身も娘の音楽発表会において、幼稚園の方針で「ビデオ・写真撮影禁止」となっているにもかかわらず、ある父親がビデオ撮影を始め、それを注意した園長先生に「どうしていけないのか？」とくっつく場面に出会いました。発表会の開会挨拶で、何度も注意されたのにもかかわらず…。

かと思えば、先日自分の犠牲を省みず、線路内に飛び込んだ自殺願望の女性を助けて、身代わりとなって警察官が亡くなる事件がありました。人間は皆、仏性を持って生まれてきます。それを出せる人間に成るか否かは正に親の教育・信心であると思います。殉職された警察官のご冥福をお祈りします。

普照院舞子境内墓地をご使用の皆様へ

昨年、送付致しました「承認書」の返送御協力の件、誠に有難うございます。今月末が提出期限となっておりますが、まだの方が若干名おられます。この書類を返送して頂きますと、当寺院より使用者の方に発行する「**墓地使用認可証明書**」が発行できません（来月4月1日付発行）。ご足労ではありますが、宜しくお願い致します。



〔編集後記〕

今年の冬は記録づくしの暖冬でした。私としましては、朝の勤行が少しでも楽になりますので、嬉しかったのですが、将来の日本や世界の異常気象やそれに伴う災害等を考えると、まずは自分自身でも温暖化防止に向けて励まなければいけないと思います。しかし、よく言われる温暖化防止の個人的レベルでの努力、「車の使用を控え、徒歩の移動」

「物を大切に使うといったゴミの削減」「無駄な電気を消す」などといったものは、実は昔の日本人なら当たり前のように行っていたことのようにも思います。利潤追求・快適主義一辺倒に偏ってきた現代社会は今、岐路にたたされています。そんな時こそ、まさに先人の「智慧」が必要なのかもしれません。

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田宗治

☎653-0861 神戸市長田区林山町 17-1

TEL078 - 691 - 5688

ホームページ： <http://www.geocities.jp/husyohin2006/>